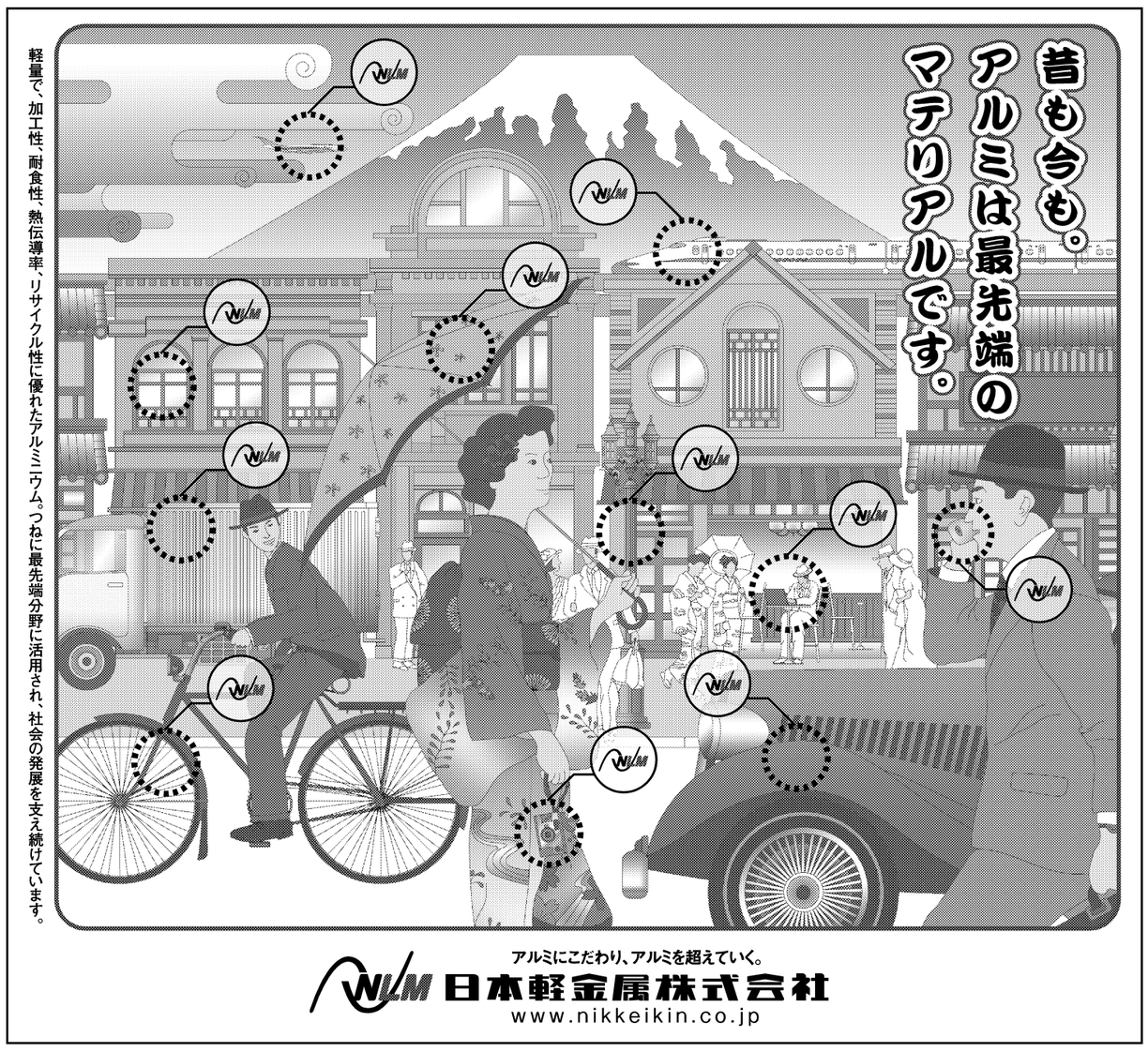


!? 地球環境クイズ !?

Q42 「第3のエコカー」と呼ばれるのは、次のうちどれでしょう?
❶ ハイブリッド車
❷ クリーンディーゼル車
❸ 低燃費ガソリン車

Q43 日本初のガソリンスタンド一体型水素ステーションが開所した都市はどこでしょう?
❶ 愛知県豊田市　❷ 静岡県浜松市
❸ 神奈川県海老名市

Q44 自動車重量税などの減免措置、通称「エコカー減税」は2015年の春まで延長されることになりましたが、「エコカー減税」が始まったのは何年でしょう?

クリーンエネルギー自動車 加速

ホンダがクリーンエネルギー自動車、いわゆるエコカー分野で存在感を増している。2012年は軽自動車で攻勢をかけ、ダイハツ工業とスズキを猛追。13年も6月に燃費性能を飛躍的に高めたセダンのハイブリッド車（HV）を投入し、7月には米ゼネラル・モーターズ（GM）と燃料電池車（FCV）の共同開発で提携するなど矢継ぎ早に施策を打ち出した。ただ今後は他陣営との競争激化が必至。ホンダはエコカー戦線の〝台風の目〟であり続け、市場拡大をけん引できるのか。

軽で3強形成

9・8%から18・4%に―。全国軽自動車協会連合会（全軽協）の調べによると、軽販売におけるホンダのシェアは11年度と12年度でこれだけ変わった。長らく同市場に君臨してきたダイハツとスズキの12年度シェアは11年度を下回り、2位のスズキは30%を割りこんだ。ホンダが〝3強〟を形成し、その一角に食い込んだと言ってよい。

躍進の原動力としてまず挙げられるのは、11年12月に発売した背高タイプの軽「NBOX」だ。車内空間の広さが子育て世帯などから大きな支持を獲得し、単月の車名別販売ランキングでは12年4―8月までトップを維持。12年度を通しての販売数も1位で、23万6287台を売り上げた。加えて同社は12年11月にも新型の軽「N―ONE」を投入。ターボチャージャー（過給器）を搭載して走行性能を高めたモデルが人気を博している。

12年度に全メーカーの軽販売台数は、前年度比16・8%増の197万2600台に達した。12年9月21日まで実施されていたエコカー補助金の効果が第一にあることは疑いないが、ホンダの活躍が軽市場全体を活性化した側面も大きい。

「大手メーカーが（軽戦線に）加わるのはうれしい。各社が競争することにより、商品も商売の仕方も良くなる」（鈴木修スズキ会長兼社長）と競合他社も一目置いている。

台風の目・ホンダの〝快走〟

エコカーと言えばHV や電気自動車（EV）、FCVが注目される傾向がある。しかし現状ではガソリン車を使う消費者が大部分を占めており、車が日常の移動手段とみなされている地方では車両価格の安さも強く求められている。当面、低燃費・低価格の軽はエコカーの〝代表選手〟として活躍することは間違いない。

HVでも攻勢

軽で存在感を確立したホンダは、13年にHVでも攻勢に乗り出した。6月に発売した新型上級セダン「アコード　ハイブリッド」は、1リッタル当たり30・0キロメートルという燃費性能を実現。トヨタ自動車のHV「クラウン」や「カムリ」が同23キロメートルであることを考えると破格だ。伊東孝紳ホンダ社長は「世界ナンバーワンのHV技術だと自負している」と胸を張る。

軽が絶好調にもかかわらずホンダがセダンのHVを発売した背景には、車の好みに関する多様性がある。

日本市場にも中高年男性を中心にセダンを好む人は一定数おり、北米や中国では大きな車が好まれる傾向が強い。「二酸化炭素（CO_2）は増大し、燃料価格が高騰していくのは間違いない」（伊東社長）となれば、中・大型車での燃費性能改善は喫緊の課題。その手段としてHVシステムは重要との考えだ。

もっとも海外では、日本のようにHVの認知度は必ずしも高くない。ホンダはアコード　ハイブリッドを13年秋に北米で投入する計画だが、現地の人にどこまで受け入れられるかは未知数だ。「これから間違いなく、ベクトルとしてはこういう大きな燃費革新技術が必要になる。そのときに向けて十分な技術と品ぞろえをしていくことが大事」という伊東社長の思いが、どれだけ早く結実するのか注目される。

FCVで宣戦布告

軽とHVで先行する他社の追撃体制を整えたホンダは、このほどFCVでも〝宣戦布告〟を行った。7月2日、米GMと共同でFCVの開発を進めると発表したのだ。トヨタはFCV分野で独BMWとすでに提携。日産自動車は仏ルノー、独ダイムラー、米フォード・モーターと連合を組んでおり、ホンダとGMのタッグは第3勢力となる。ホンダは20年ごろの実用化を目指し、燃料電池と水素貯蔵システムの共同開発を行うとしている。

FCVは水素と酸素を化学反応させて得た電気エネルギーで走る仕組みで、走行中に排ガスは出ない。EVよりも航続距離が長く、燃料補給時間は短く済む特徴がある。ホンダの伊東社長は「数十年間はHVが主流になるが、その延長線上にはFCVがある」とし、研究開発を進めてきた。

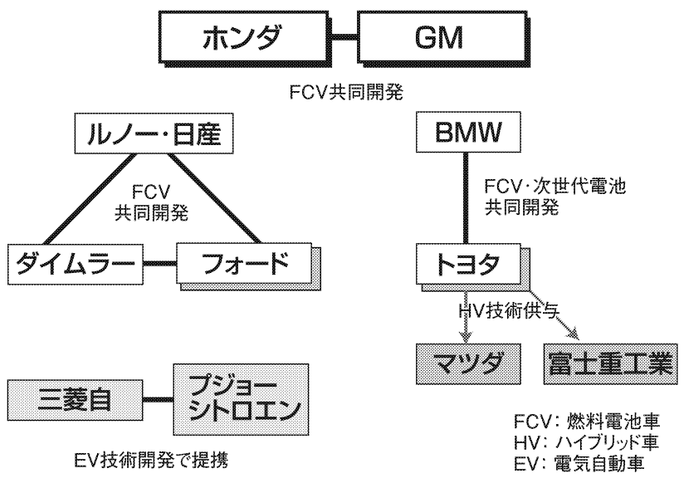
ただ普及に向けては、車両価格を引き下げて水素供給インフラを整えることが課題とされる。かつてFCVは1台1億円と言われていた時代もあり、大手自動車メーカーといえども独力で技術革新を行い低価格化につなげるのは容易でない。ホンダはこの分野で独自路線を貫いてきたが、規模のメリットが出せず後れを取る可能性もあった。立ち位置が似ていたGMと手を結んだのは、自然の成り行きとも言える。

以前のホンダは販売台数を至上とする考え方からは距離を置き、他社との提携にも積極的ではなかった。しかし12年9月には、16年度の世界販売を11年度比で約2倍となる600万台にする計画を発表。製品の個性や技術力だけでなく、規模を追う姿勢を鮮明にした。今回のGMとの提携は、こうした方針転換の帰結でもある。

ホンダの環境技術は自動車業界内でも高く評価されており、今後も同社を軸にした提携が加速する可能性がある。一方で競合する陣営が警戒を強めることは避けられない。軽、HV、FCVとエコカー分野で存在感を高めてきたホンダは、中長期的に市場をけん引するリーダーになることができるのか。多くの関係者が注目している。

「NBOX」がホンダの軽販売をけん引した

エコカー開発をめぐる主な提携関係



新型上級セダン「アコード　ハイブリッド」と伊東ホンダ社長

スマートコミュニティー／エネルギーの高効率利用

HONDA
The Power of Dreams

セダン愛。

超アコード。クルマの歓びを追求するか。環境への配慮を優先するか。そんな二者択一の選択肢に、本当の答えはない。Hondaは問題を超越したところに、新しい答えをつくり出す。2モーター・ハイブリッド・システム搭載。走ることの快適と上質を極めながら、燃費30.0km/L*を実現した。セダンを愛すること。人生を愛し、地球の未来を愛すること。燃費30.0km/L*

*JC08モード走行燃料消費率(国土交通省審査値) 燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境や運転方法により燃料消費率は異なります。

未来を変えろ。EARTH DREAMS セダン シリーズ
ACCORD ハイブリッド

Photo：EX　http://www.honda.co.jp/ACCORD/　Honda Cars よりお届けします。

HONDA